

# The Reminiscence of Exellia NG+1

## 燦る大和魂

### 作成レギュレーション

#### 基本概要

- ・ 経験点：51000 点（新規）、55000 点（継続）
- ・ 資金：49900G（新規）、55900G（継続）
- ・ 名誉点：1200 点（新規）、1400 点（継続）
- ・ 成長回数：100 回
- ・ アイテム：楔石の欠片×12、楔石の大欠片×6

#### 各種制限について

- ・ ヴァグランツ禁止
- ・ 蛮族 PC 禁止
- ・ SW2.0 / 2.5 標準流派への入門、及び秘伝の習得・使用の禁止
- ・ 武器防具強化に関する特殊制限（宿り木の棒杖、楔石強化以外は全面禁止）
- ・ レベル制限 6～7
- ・ 成長回数が 10 以上の時、その成長回数の 60%以上の偏重割り振り（極振り）禁止

### 動画用の参考資料（Lap2-10 書き損じ含む）

#### テミス

立ち絵：FF14 の同名人物とその外見を同じくする  
読み上げ音声：COEIROINK「AI 声優-銀牙」

#### 神城まどか

立ち絵：青地に桜の花びらの模様が入った、エクセリアのような顔つきの女性  
読み上げ音声：VOICEVOX「冥鳴ひまり」

#### ホクトクラフト

立ち絵：あからさまに『すべての黒幕』と言うべき黒ずくめ（a）、その本性を見せたときの姿（ジェニオン模倣、b）の 2 種類。「b」はディテールガン増し+天野絵  
読み上げ音声：VOICEVOX「麒麟ヶ島宗麟」

## シューティング・セイヴァー・スター・ドラゴン

立ち絵：概ね、遊戯王の「シューティング・セイヴァー・スター・ドラゴン」に準ずるが、「天野絵風アレンジ」と「バックパック所持（＝グリーナー）」である点が違う。

読み上げ音声：VOICEROID2「伊織弓鶴」

## 導入

神城まどかの出現、そして『創造者』たるホクトクラフトの出現から3日。

君達は、全くもって休めた気がしなかった。いや、身体は確実に休めているが、心が休めていなかった。

## ホクトクラフト

『端末風情が、仲間を集めて抗っているのを見て、ひどく滑稽でね』

『俺が、お前達が死ぬ、と言う未来を書き記しているからだよ。既に、物語の最終局面までは書き終えた。俺を真っ向から否定し、討ち取った場合…この世界を観測する者がいなくなることになるわけだ』

『せいぜい、その滑稽な立ち回りを、世界の晒し者として晒し続けることだな』

黒ずくめで、その容姿を窺い知ることはできなかったが…その視線は、明らかに、いや確実に、君達を侮辱していた。そして、去り際に…この世の人間ではあり得ないほど、にやりと嘲笑っていたのを、君達は見ていた。

## エクセリア

「おーい。お前等、すごく疲れたような顔しているが、大丈夫か？」

(※GMメモ：RP待機)

## エクセリア

「大丈夫ではないにしても、これが避けられぬ運命だと言うことに違いはないんだ。

君達だって、『勿論だ』と言って、覚悟を決めたんだろう？ だったらせめて、彼奴にぎゃふんと言わせてやればいい。彼奴がどれほどの悲鳴を上げようが、この世界を生きる私達にとっては全く関係ないんだよ」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「じゃあ、《コイオス山》へ行こうか。

いい加減、黒の剣士も待ちくたびれていることだろうよ」

## 過重斬殺

君達がコイオス山の5合目についたとき、その男は待ちくたびれたように君達に視線を向ける。

黒の剣士

「待ちくたびれたよ、《暗魂の暁》。

お前達を屠るため、僕はパシュタロットの座に就いた…。

さあ、その祝福を僕達に明け渡すんだ。僕達の世界のために」

——ただのカモだ。

敵：黒の剣士

君達は黒の剣士を討ち倒した。

黒の剣士

「まさか…ここまで強いとは…僕も侮っていたよ。

でも、君達はこの時間軸で死に果てる。創造者の目的が、『世界の破滅』と『プレイヤーキャラクターの虐殺』なのだから！アヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤヒヤ！」

そう言って、君達を嘲笑うように消え去った。

その途端。

君達の前の空に、黒ずくめの男が現れた。そう、黒ずくめの男が『空に』現れたのだ。

あらゆる秤にかけても理屈を通すことができないような巨体。

それが、彼の——ホクトクラフトの意志だったのだろう。

空間を伝うように、声が響く。

ホクトクラフト

『お前達には感謝しているよ。ここまでしみったれた世界にしてくれて。

おかげで、お前達の命を、人形のように壊すことができる。

お前達も薄々気付いているだろう？この世界に於いて、誰が「最後の敵」なのかと』

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「お前は…何故世界を破壊する!？」

ホクトクラフト

『無論、楽しいからだ。未だ終わることのない過去の罪。

終わりを経ても、醒めることのない悪夢。知的障害の女と婚姻を強制され、一世一代とも言うべきものたるプロポーズを、ただの娯楽にさせられたというトラウマ』

『それを払拭できるのは、己の破壊衝動を振りまき災厄を齎すことができる、この世界だけだった。お前の台詞も、お前達の行動も、すべて筋書き通りだ。

エクセリア。己の役割に従順になれ。自我を捨て、すべてを灰燼に帰すのだ。周りからの扇動に、永劫に振り回され続けた俺のように!』

エクセリア

「お前の指示に従う義理はない!」

ホクトクラフト

『では敢えて訊こう、エクセリア。俺の半身とも言うべきお前に!

お前に人権はあったか!火のなき灰、最後の薪の王、最果ての聖王、始原の十四席…。いずれの名も、お前に人権がないことの証左だ!』

エクセリア

「確かに、火の時代にはそんなものはなかった。だが、火継ぎを終わらせ、創造の奇跡を起こし続けたあの時代から、私にはそれが生じた!お前も、今は違うのではないのか!」

(※GMメモ：RP待機)

ホクトクラフト

『聞き苦しいことを言う!俺には、今も尚、外の世界において、基本的人権はない!

過去にその人権を否定されてから今に至るまで、ずっと、この苦しみを味わい続けた。

俺の半身であるお前も、人権がないから、世界に必死で抗ったのだろうか!』

エクセリア

「聞き苦しい、だって?お前の方こそ、聞き苦しいじゃないか。お前は、過去に縛られすぎているんだ。幼少期のトラウマが、己の裡から、歳月をかけても抜けないことには同意する。だが、それを理由として、世界を破滅に向かわせる権利など、誰にも、どこにもありはしない!

私がお前の半身だと言うのなら、この事象自体も飲み込めるだろう？」

(※GMメモ：RP待機)

ホクトクラフト

『やはりお前は、俺の善性のみを集めたような外道だ。

俺の苦しみ、嘆き、怒り、絶望…それを、お前は反芻することさえできないのだろう。

ならばせめて、創造者として、貴様らに絶望を与えよう。

さあ…初めて体験した災禍を知るがいい』

そう言い残し、黒ずくめの男は空から消える。

それと同時に、地面が揺れ始める。

——君達は生命抵抗力判定を行う必要がある。

生命抵抗力判定 目標値：17

**成功時ダメージ半減、基準値「2d+24」点の物理ダメージ。**

3分ほどの揺れだろうか。

そのうち3回ほど、身体が宙に浮くような揺れに見舞われ、その結果…コイオス山の西の麓に、巨大な虚ができていた。

エクセリア

「…あの規模の揺れ…。一旦、ギルドに戻って状況を整理しよう。嫌な予感がする」

## 災厄と激震と海嘯

暗魂の暁へと戻り、エクセリアは私室で状況を整理していた。

エクセリア

「各所の地震計が振り切れるほどの揺れと、トルガワ港を含む沿岸部を襲った、遡上高 70メートルの大津波、か…。この地震の規模は 9 を超えるだろうな、流石に…。

それに、空は星が降り注ぎ、今も尚激震は収まらない。こいつは…本格的に、創造者がこの世界を滅ぼしにかかっているようだな…」

「そして、この方向からの揺れ。間違いない。今、ここで起ころうとしている事象は…」

ひとつの確信に至り、エクセリアはサロンへ向かう。

エクセリア

「状況はどうなってる？」

船頭のデヴィッド

「あんまり芳しくない、っていうのが現状だ。船と足でトルガワ港に向かったんだがな、そこは悲惨だったよ。そこには何もいないのに、地面にはとんでもない大きさの足跡。おまけに、避難をしそびれたのだろう人の遺骸が残ってた。

そこで何が起こっていたのかは分からねえ。だがこれだけは断言できる。

そこに向かう最中、地面が鳴っていた、ってことだ」

ジェシカ

「地面が鳴る現象に付随する形で、あちこちに《奈落の魔域》が出現していた。龍刻全土の冒険者ギルド総出で対処に当たっているが、魔域の終端には『見たこともない』魔動機がいたそう。冒険者ギルドはそれの討伐を数度試みたが、全滅。死者をただひたすらに出すだけで、ニールとアレルヤの連携でなんとか拮抗するレベルだったよ」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「《地鳴らし》と《未確認の魔動機》…。そろそろ謎が解けそう。

デヴィッド、足跡はどんなカタチをしていた？生物的还是かどうかい」

船頭のデヴィッド

「あ！？足跡か…。確かに、生物とは到底思えない形状をしていたな。それと、避難ができた被災者が言うには、『青くてデカイヒトガタの魔動機が港町を踏み荒らしていった』んだそう」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…理解できたよ。大まかな事情が。黒の剣士を退けた後、ホクトクラフトが現れた。

奴は言っていた。『己の破壊衝動を振りまき災厄を齎すことができる』と。

奴は、世界を…ラクシアという惑星を踏み荒らすつもりだ。その結果として、全生命の10割を消し去るつもりなのだろう」

「私が『終滅幻想』と呼ばれる…『終わりを滅ぼす幻想』と言われる所以が分かったよ」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「木偶の坊である私に、世界を滅ぼす指向性を止められるなら止めてみろっていう…意志なんだ。奴は世界を滅ぼす巨悪として私達に試練を課した。『絶対に止められない質と量を以て』ね。それを超えてみせるならば、『本当にホクトクラフトが滅ぼしたい巨悪と戦う権利を与える』つもりでね」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「あいつは私の事を『半身』と言っていた。なればこそ、私は奴の考えることがある程度分かる。それを根拠に、今回の災禍を振り返ってみると…奴が起こした災厄は4つ。『地震』と『とんでもない高さの津波』、『地鳴らし』。そして…『疑似的な終末の災厄』」  
「奴は疑似的な終末の災厄を瞬間的に起こすことで、『星の理』が司る天脈に綻びを生じさせた。そして、地震を引き起こすと同時に、震源地に大量の『青いヒトガタの魔動機』を生成。津波による海の立ち上がりと同時に、その魔動機を動かすことで、せいぜい3m程度だった津波を80m程度にまで引き上げた。それで、トルガワ港を破壊して…生き残った避難民を『地鳴らし』で踏み潰したわけだ」

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「人として非道を行った。だからこそ…私は、奴とケリを付ける。  
…とはいえ、魔域に関しては他のギルドに投げるしかないだろう。懐刀はまだ忍ばせるに限る」

そう言って、エクセリアは未来を見据える。

そこには、今の今まで見てきた『絶望』が映っていた。

そして彼女は、指を鳴らして使い魔を創造する。

エクセリア

「…頼んだぞ、ベルリオーズ…」

そう言って、エクセリアは使い魔を飛ばす。

(※GMメモ：RP待機)

エクセリア

「…生き残れなかったとしても…、これが、私が見る中でも最後だ…」

## 報酬

### 経験点

- ・ 基本：12500 点
- ・ ボーナス（黒の剣士討伐戦）：2500 点

### 資金

- ・ 基本：6600G
- ・ ボーナス（黒の剣士討伐戦）：3000G

### 名誉点

- ・ 基本：200 点
- ・ ボーナス（黒の剣士討伐戦）：100 点

### 成長回数

- ・ 基本：21 回